

令和6年度 東近畿教区信徒信心研修会

並びに 金光教福井県教会連合会信奉者研修会

新潟県直江津教会

講師 中西美由祈師

講題 「ポジティブ信心」

令和6年7月14日

於 金光教武生教会



当日のライブ配信動画

<https://youtube.com/live/Vfsbg2MVynQ>



本日の講師。

新潟県の金光教直江津教会中西美由祈先生のご紹介をさせていただきます。

中西先生は、昭和58年7月にお生まれになり、

平成16年に金光教師任命。

平成16年より金光様のお宅の修行生。

平成26年より金光図書館で御用をあらわれました。

平成19年にご結婚になられまして、令和3年に金光教直江津教会の方へ移られ、

令和3年3月から現在まで金光教直江津教会で御用をなられています。

本日はポジティブ信心とのご話題でのご講話を頂戴いたします。

それでは中西先生よろしくお願いたします。

皆さん、こんにちは。只今ご紹介いただきました。金光教直江津教会在籍の中西美由祈と申します。よろしくお願いたします。新幹線が通りまして、とても2時間ぐらいでこちらの方に来させていただきまして、とても近い印象を持たせていただきました。

直江津教会からご本部までは、大体車で参拝させていただいておりますので、福井県はなかなか降りる機会がなかったんですけれども、今日はこうしてご縁いただきましてありがとうございます。どうぞ、よろしくお願いたします。

私の実家は、熊本県の肥後大津教会というところでございます。父が教会長をしております、私は父がご本部で御用をしているときに、御本部で生まれまして、6歳まで過ごさせていただきました。

小学校に上がりますときに、御本部から家族で熊本の肥後大津教会の方に帰らせていただきました。小学校から高校卒業までを熊本で過ごさせていただきまして今回こちらの教区の信心研修会ですね。講師をお願いしたいということで、お電話がありましたのが約1年前になります。

最初、私になんてお話が来たんだろうと、謎でありましたが、神様からいただいたご用だと思いついて、ありがたくお受けいたしました。

今回のお話の内容をどうさせていたただいたらいいのかな、と八木先生にお尋ねしましたら、私の信心のお話をしてください、ということでご依頼をいただきましたので、この約1年間、私の信心って何なんだろうな、ということを考えながら過ごさせていただきました。

そう考えたときに私の信心、私って何だろうと思ったときにポジティブという言葉が出てきました。私はよく知り合いの方から、「中西さんっていつも元気だよね」とか「ポジティブ思考だね」ということをよく言われておりまして、そこで私の信心ってポジティブ信心だな、という言葉がしっくりきました。

なので、今回はこちらの信心の講題ですね。ポジティブ信心ということをつけさせていただきました。私がどのようにポジティブになれる神様に出会ったのか、また今こうやって信心させてもらっているのか、ということをお話しさせていただきたいと思えます。

私は小学校、中学校と休みがちだったんですね、学校を。今で言いますと、不登校ということになります。なぜ学校に通えなかったのかと言いますと、小学校の時から仲が良かった友人がいて、その子の家庭の悩みをずっと聞いているうちに、どんどん私自身が苦しくなってきました。

朝、学校の支度をしていますと、頭痛が起きてきたり、また腹痛が起きたりですね。

家から一步も出られなくなってしまう。人の痛みというのがですね、自分のことのように思えてしまつて、もう辛くて辛くてどうしようもない、というふうな状態になってきました。

中学生になりますとその友人が、どんどん今度はリストカットを繰り返したりとかですね、夜も家に帰っていないかったり、というふうな話も聞きました、私があることが全然理解できない。全く正反對のことを友人がどんどんやっていってしまう。そのような生活をしているというのはもう考えられません。

その話を友人は私にしてくる。その傷も、こっそり見せてくれたりするんですね。その話とか、そういうことを見聞きするたびに、どんどん友人を何とか助けたい。私が何とかしなきゃいけないと、いうふうに思つてしまいました。けれども、なかなか子どもの私にはその家の環境まで変えるということもやっぱり出来ないわけです。その友人も、だんだん学校に来れなくなつてしまひまして、来られなくなつているという話も聞くんですから、私も行けられない、どうしようもなくなつていったわけです。どんどん悪循環が起きていきました。

で、ある日突然ですね、その友人は家庭の事情で転校してしまつたわけです。もう本当に、いつ最後に会つたのかもわからない状態なんですけれども、突然のことでした。

私がある子を手助けしてあげられなくて、もう学校から逃げてしまつたから、その子はやっぱりそういうふうなことになるつてしまつたんじゃないか、ということをおもひまして、自分をどんどん責めていくわけです。家族からは私のせいではないと言われるんですけれども、全然素直に思えなくて自分を責めるわけです。

そんな時に、こんな私は消えてしまつた方がいいんだ、というふうなことまで思ひました。毎晩、神

様に明日の朝、目が覚めませんように、と布団の中で本気でお願ひして眠りにつくんですけれども、必ず朝はやってくるんです。目が覚めると、あーっ目が覚めちゃったなって、いうようなことで、どうやって一日を過ごしたらいいんだろうっていうことを思っております。

今思えば、朝目が覚めるっていうことと自分が本当におかげをいただいたことなんだってことは、今わかるわけです。だからその時のことを思いますと、とてもご無礼なことをしていたんだなっていうことを思いました。

それで時々、朝頑張って学校に行けるようになりました。まだまだ休みがちなんですけれども、頑張って勇気を振り絞って学校に行きます。そうするとクラスの友人はよく来たねって言って、みんなを迎え入れてくれるんですね。すごい気を使ってくれるわけで、一日楽しく過ごせるんですね。

楽しく過ごせば過ごせるほど、あーあの子はどうしてるだろうって思うわけです。私だけ楽しんでていいのかなっていうことも思って、罪悪感が出てきます。

そうすると、やっぱり次の日学校に行けられない、というようなことがあるわけです。心と体の具合が違う、バランスが取れてないというふうな3年間を過ごしました。

中学3年生の時には、次はどういう進路に行くのか。高校に行くのかどうするのかということも決めなければいけません。学校に通えていないということもありまして、ほとんど勉強ができないわけですよね。小学校、中学校の勉強がなかなか出来ていませんでした。本当に学力が低い中で行ける学校というものは限られてくるわけですね。そうなってくると、公立高校は、今から頑張っても50%、受かるかどうかはあなた次第だ。というふうなことを谷野先生に言われました。

そういうことで滑り止めで私立の学校も受験するように薦められるわけです。そうなりますと、中

学校3年生のときの担任の谷野先生が、県内の私立で私が通えそうなところを探してきて下さいまして、その薦めてくださった学校というのが女子校でした。女子校ということもありましたが、普通科と社会福祉科と家庭科という3つのコースがありました。その中でも、家庭科がいいんじゃないかと先生が決めて言ってくれるわけですね。

私は旧姓吉田と言うんですけれども、「吉田は手先が器用だから、ここに行くべきだ」と決めてください」って、言われたんですよね。あまりにもしつかりと、「ここに行きなさいと言われるので、あつそつかと思ひましてね。家庭科も大好きだし、小学校の時から裁縫は大好きで、あと美術も大好きでした。絵を描くのも、とにかく他の勉強はできないんですけど、その2つだけがとても成績が良かったですね。ということもありまして、先生が「そこに行きなさいよ」と言ってくれました。で、そこを目指します。

これから頑張つて勉強しようと、夏休みに問題集を買ってきて自分なりに勉強するわけです。それでも、中学校になかなか通っていないということもありまして、自分が学校生活を楽しんでいるということが全く想像できないわけです。想像できないし、私立に行くとお金がどうしてもかかっちゃいます。それを思いますとやっぱり公立に行った方がいいんじゃないかと、行けるかどうかは分かりませんが、子供心によっぱり、私立よりは公立の方がいいよな、というようなことも思います。

私には、2人兄がいます。3番目なんです。兄たちが学校に通っている姿も見て、お金がかかるといふことも分かってきましたので、なんとか親に迷惑をかけないようにという思いで、公立にあまり行く気しないし想像できないけれど、そっちも受からなきゃいけないなと思っていました。進路が決まってから、なかなか学校に通うことはできなかったんですけれども、先ほど申しましたように勉

強もしいといけない。自分なりに頑張ってやるわけです。

受験の日が来まして、まずは私立のすべり止めの方から受験になりました。教会でその日の朝、お届けをしまして、「今から受験に行つてまいります」とお届けをさせてもらいました。そうすると父からですね、「テストを始める前に心の中で金光様どうか今まで勉強してきたことを全て出させてください、とお願いしてから始めなさい」と言つて声をかけてもらいました。

高校までは距離もありましたので、父に車で送つてもらつて受験をしました。とても落ち着いてですね、緊張することもなく受験に取り掛かることができました。

終つて正門のところに父がすごい心配そうに迎えに来てくれました、その姿を見て、私はとても一つ自信がついたので、勉強をやつてきたことが発揮できたと父にですね、笑顔で「かなりできた」というようなことをですね、伝えました。父もすごく安心して帰り、本当ルンルン気分ですに乗つて帰つてきましたね。

後日、合格通知が中学校に届きまして、中学校の先生と一緒に喜び合いました。それまでは本当に自分自身にも自信がないし、何やつてもうまくいかないと思つていたので、とても本当に合格できたというのは、認められた気分というか、自分がそこに存在したというような、そんな意識もあつたように思います。

その後ですね。公立高校の受験があります。クラスメイトと一緒に受験に向かひまして、公立高校を受けるところが中学校の目の前なんです。同じ通学路を通つて朝行きますとだんだん気が重くなるわけです。高校の中に入った時にとつても、重たい空気を感ずまして、とつても居心地が悪かつたんですね。受験をしながらも、ここで私、もし受かつて学校通えるんだろうかということをすごく

感じまして、もし受かったら、またここ中退するかもしれないな、というようなことまで、その時に考えちゃいました。

合格発表は、卒業式の次の日です。友達と一緒に合格の番号を見に来て、そうしますと番号がダブツとついているわけです。自分の前後だけ私の番号だけないわけです。みんな他の友達を受かっています、それを見たときに、なんかすつきりしたんですね私の中で。

それまででしたら友達と一緒にじゃないと不安だし、私だけ落ちて私はバカなんだとか、みんなと違うということで落ち込む性格だったんですよ、だけれども、その時に全然むしろ清々しいというか、友人に本当に心の底からおめでとうって言って、友人たちはすごく気を使ってくれるわけです。落ちちゃったみたい。自分たちは受かったのに、っていうような思いがあるみたいなんですけど、私は全然気にしてないし、大丈夫だよって話もしましたし、本当にその時に、私これで変わるんだって思ったんですね。本当にふわっと沸き上がってくると言いますか、そういうふうな感じで光がちよろろつと見えまして

そこから、中学校3年生の卒業してから高校入学までの春休みというのは、いつもの春休みより長いわけです。約1ヶ月ほどあるわけですね。その春休みの間に、生まれ変わろうと思えました。

何かこう題名を決めて、私はそれに取り組もうと決めまして、その時に性格改造計画と名付けたんですね。それを名付けまして自分の中で。今までの弱い自分っていうものを変えたい、生まれ変わるんだっていつことを願いとして、それまでの自分だったら絶対にしなかったことをするということに意識を変えました。

その日に、受験の発表終わった午後、まず生まれ変わろうと思った時に見た目から変わろうと思

いまして髪の毛を伸びていたんですけど、バツサリと切りました。中学校は、校則で眉毛をいじつてはいけない、というのがありまして、みんないじつていたんですけど、私だけはすごい真面目に立派に眉毛をしております、それを美容室でお願いします、と綺麗に整えてもらって、というので、見た目からまず変わります。よし、これでスタートがきれたと思いました。

その頃ですね。父から今紙でお配りしているんですけども、上の段に書いてあるんですけど、父から教えてもらったこととして、『天は父、地は母、天と地の間に住む人間は神様の懐に包まれているんだよ。だから、どこにいても神様が守ってくださるからね』という話を聞いていました。それまでも折々にそういう話をしてくれてはいたと思うんですけども、この時、初めて神様の温かさを感じることができたように思いです。

それまでの私は、人目が気になって買い物に行くこともできませんでした。道を歩いたら邪魔にならないかなとか、誰か見てるんじゃないかなと思って家から出ることがなかなかできなかったんですけども、今までしなかったことをやろうと決めたときに、よしまずは買い物に行こうと一人で行ってみよう。それまでは逃げたことからですね。まずやろうと思って行ってみました。

そうしますと結構平気に歩けるわけですね。春の陽気の中を歩けるんです。道路を歩いていますと、自然と神様の体の上を歩かせてもらっているような、ふわふわとしたようなと言いますかね、そういう感覚になりました、空を見上げますと、神様にすごい包まれているように感じました。そういうたものを感じました。

それまでの街の景色とは全く別の、すごくキラキラキラ輝いた街の景色が広がるわけです。全然それまでほんと、くすんだ色の、どうしようもない灰色のような生活、世界だったところが、す

ごく彩りが入ったわけです。この瞬間に私は神様に会ったんだなど。またそういうふうなことを感じると、とてもずつと温かいわけですね。不安なことがなくなると思いますか、ずっと抱っこされているような感じ。安心して生活ができるようになっていくわけです。

他にも、食事の後片付けというのも、食器洗いとか、食卓を拭くとか、そういうことも、今までは面倒くさいと思って何もしなかったんですけれども、そういうことも率先して、ちよつと休憩したいと思うんだけど、動くみたいな。まず、そういうふうなこともしてみました。

自分のやりたくないことや、面倒だと思ったことを、むしろやるっていうふうになんか心がけて生活しますと、だんだん、だんだん毎日毎日、

1日1日が楽しくなってきました。目の前の世界が開けていったように思います。春休みの間に性格を180度変えることができました。女子高校に4月になって入学しました。その女子高校には同じ中学校から入学したという人はほとんどいませんで、みんないろんな学校から来た子たちばかりだったので、私の過去のことを知っている人は、ほぼいないわけです。ということがありまして、よしじゃあ、全然まだまだこれから性格改造していけるな、というふうに思いました。とっても好都合の学校に入れたなと思いました。

その高校で出会った友人というのは、まだいまだに連絡も取り合っていました。ほとんど会えることも減ってしまったんですけれども、それでも時々、どうしてるとか言っていないながらですね、たまには、熊本帰っておいでよとか言われたりもしながら、本当に一生の友に出会えたな、というふうに思います。

高校3年間というのは私の好きな裁縫をずーっとできるわけです。すごく幸せな3年間で家庭

科の授業がぶつ続けで2時間あったり、3時間あったり、4時間あったりするわけですね。すごい毎日毎日が楽しくて、いろんな作品を作っていて、とっても楽しかったですね。

授業も本当それまでは後ろの方で、誰にも気づかれなくていいところで受けているような人間だったのが、一番前の教室の真ん前を陣取りまして、私いつもここに座りたい、と毎回そこに座りまして積極的に手を挙げたりですね、わからないことを先生に必ず聞くとか、というようなこともするようになりました。とても学ぶ楽しさをそこで知ったわけです。中学校からは全く想像のできない生活、学校生活になりました。

その高校は女子校ということもありまして、検定試験をすごく積極的に取らせてくれました、それで気にしたこともなかった、検定試験を受けることが、どんどん自分に自信さえあればできるわけです。どんどんいろんな資格を取っていくわけですね。そうするとやっぱり自信もついてきますよね。本当にありがたいなと思います。

その他にも、生徒会の仕事をしてくれないか、ということでも先生からお願いをされたりですね、あと熊本県で高校総体、とか国体、熊本国体とかあったりする年なんです、この高校3年間のうち、ちょっと被りまして、そこでスタッフをしてくれということもあったりして、本当に経験というか、国体とか総体とかということも、それまで知らなかったんで、そうしたこと携わるスタッフさんの働きというのも、それまで想像したことがなかったんですけれども、そういうところいろいろお手伝いさせてもらってとってもいい経験というか、本当にいろんな経験をさせてもらって、その都度その都度、生徒会の仕事にしても何にしても不安になるわけで、時々後ろに引っ込んでしまっただけですね。

だけれども、父にそのたんびに話をすると「いやいや、大丈夫、大丈夫、神様が一緒に来てくださる

からね。金光様、金光様とお願いしながら丁寧になさせてもらったらいんだよ」って言うようなことをすね言ってもらいましてね、どんどん道が開いていくわけです。

なので、この学校をすっごい、こり押ししてきた中学校3年生の時の担任の先生には本当に感謝だと思えます。なので、あの時なんであんなに先生はこの高校を薦めてきたんだろって、いまだに思うんですけれども、でも、やっぱりそれも神様が全部導いてくださったことなのかなって思っています。中学校時代に毎晩毎晩、目が覚めないようにお願いしてたってことを思いますと、本当に神様に命をいただいているっていうことを今自覚するわけです。

そして、いろいろまた悩みを抱えている友人の話を聞けば、なんとか解決する道を探ったりですね、常に神様にお願いしながら聞かせてもらうようになりました。やっぱり女子校なのでね。いろんな子たちがいるわけですね。なので、そういう子たちが、「話聞いてよ」とかって、言ってくるわけですね。そうするとですね。中学校までだったら、その話聞いて、どうも全部私が受け負ってしまつて辛くなるところが、神様にお願いする、神様がいるってことが分かったので、潰されることがなくなったと言いますか、お願いしながらお話を聞くと。

でもお話聞くだけで、友人も助かったりするわけですね。そこに神様にお願いしながらっていうのが入ると。なので、高校時代は色々といろんな問題、いじめだとかいろんなことも目にしましたけれども、そこに『神様と共に』っていうところが入ってくると、物事がうまく進んでいくんだな、というように感じました。

自分の力で解決しようとしたり、私が解決しなくてはとか、私が何とかしなくては、となっているから苦しくなっていたんだな、ということもその時思います。

神様は無駄事をなされないとよく言いますが、まさにそうだなと思います。不登校を経験したからこそ、今私を作られているわけですね。

現在私には高校1年生の長男と中学校1年生の次男と小学校3年生の三男がおりまして、男子3人でとても元気がいいんですけれども、とても仲いいんですね。だから、本当にありがたいなと思うんです。

それでも日々子育てをする中で、子どもたちに怒ったりするわけですね。それでも毎日楽しいわけです。イライラもするんですけども、それでも楽しいなって思うんですね。その喜怒哀楽を感じるっていうことは、命あってこそものって思うんです。命があの時なくなっていれば、もう子どもたち3人に会うこともなかったらうし、って思いますと、今あの子供達子どもたちを怒っている自分も面白いというか、生きているなって思うんですね。

なので、今でも時々なんでこんなことになるんだろうって思うようなことがあります。辛くて苦しいこともあるんですけども、それでも神様のお働きの中でのことと捉え直します。それでお願いをして向き合っています。そうすると少し気が楽になって、神様のお働きの中でのことって思ったら、もうあがなえないわけですね。

そうすると、解決するためのものに待つというか、自分の意思を少し抑えるといえますか、そういう声に向かうような気がします。その度に辛いことが起こってくるたびに思い出すことがあります。

それはですね、高校3年生の冬に朝読というものがありまして、朝読書ですね。授業が始まる前に10分から15分ほど自分の持ってきた本を読みましょうという時間があったんですけれども。

高校を卒業したらですね、私はその時に金光教学院に行く予定にしておりますので、その朝読

の時間にはお道の本を読もうと決めまして、その時に読んでいた本というのがあります。それがレジユメの2番目に書いてあるものなんですけれども、『四代金光様』という本があります。教会にこれぐらの本でありましてね。それも朝いつもサブバッグに入れて持って行くので、ちよつと重たいんですけどね。それを持って、読むんで朝その大きな本を開くわけですよ。それを読んでおりました。

ちよつと読ませていただきますね。

四代金光様、金光鑑太郎君十年祭、偲び草『明るい方へ』昭和33年ラジオ放送。

目の前に赤いガラスをやりますと、向こうが赤く見えます。

ところが目の前に赤いガラスをやっているというのを忘れて、みな赤いんだというようなことは、これは通らぬ話です。

全部のものが赤いのではなく、赤いガラスをかけたから赤く見える。

青いガラスを通してみれば、向こうが青く見える。

青く見えるから全部青いんだというようなことはありません。

こんなことは分かりきった当たり前のことなんです、それがさて心の問題になってまいりますと今申しましたように、赤いガラスをかけていることを忘れてしまうようなことが私自身よくある。

何か辛いことや、苦しいことに会いますと、何もかも辛く思えて、辛がらなくてもよいことまで辛いことの種にして、余計辛がっているのです。

赤いガラスではありませんが、いわば辛いガラスを目の前にかけて、みんな辛いことのように思えてしまふ。

そんなことがある。こんなことではいけないと思うのですが、さて辛いことに会いますと、

もう辛いことに負けまいとするような気もどこへやら行ったようなことになる。

後で考えてみてどうしてあんなに大げさに考えたのであるのかというようなことがよくあります。

実際、苦しさに負けている自分は目がくらんでうろたえているのです。

暗い面ばかり考えずに、明るい面を考えていかねばならないと思います。

誰でも良くなりたい、もっと良くなりたい、こつ思います。

また、みな暗いことよりも明るいことが好きです。

嬉しいことや、楽しいことの方が好きです。

まだこれはお話は続くんですね。続くんですけれどもここまでです。ね。読んだ時に、目の前の霧がパツと晴れまして、そつだ私辛いことが起こると、全て何もかもが辛くなってしまっていたんだ、ということに気づきました。

楽しいことは楽しいことにあるはずなんですけど、全て辛くなっていたんですね。それに気づきまして、辛いことは辛いこととして辛がっておけばいい。それと別に楽しいことを楽しめばいいじゃん、というふうなことも思いました。だから辛いことが、高校生だったらテストがあつて面倒くさい。今勉強ちよつと嫌だなとか、思春期でみんなの前で発表するのは嫌なだけで、しなきゃいけないとか。

そついう本当に些細なことなんですけど、高校生にとってはちよつと辛いことが出てくるわけですね。そついつつことがあると、全てがそれに支配されちゃうわけ、心配事になっちゃうんですね。それでも普通に生活してるから、友達と遊ぶことだつてあるわけです。あつて、そつちは楽しいはずなのにその不安があるからお友達と素直に楽しめないっていつつようなことがあつたなと気づきました。

じゃあまず、その辛いこと、ここに置いてこうって思ったんですね。ここに置いて、今日は友達と遊ぶから、そのことは知らないって決めたらいい。楽しんで後に思う存分それに向き合おうということなことを思いました。そうしますと、すごく楽になりました。

思い分けというか、辛いことはとことん辛がつて、楽しいことはとことん楽しんでやえって心がけて、ずっとこのお話をそのたびに読み返すわけです。そういうことで私はとても心が軽くなって、ますます人生が楽しくなってきました。

振り返ってみると、私が今作られている、私が今楽しく毎日を過ごしているというのは、『明るい方へ』という神様の何回とか書かせてもらってますけど、そこが一番私の中で土台になる言葉だな、というふうに思っております。

こういうことで辛いことと、楽しいことを分けて受け止めることができるようになって、辛いことはここに置いてこうというのは神様のところに置いてちょうわけですね。神様に持ってもらっておく。

そうしますとすごく楽になると言いますかね、本当に神様がいいようにしてくださるんだなということも、そこをお願いというか、祈りがあつてのことなんですけれども、乗り越えさせていただけるところになったなというふうに思います。だんだんとポジティブな思考に変えることができてきました。

今年の春、御本部でお仕えになった御大祭に教会から車で参拝させていただきました。本来なら昨年が教祖140年の記念のお年柄でしたよね。秋の御大祭に教会から大きめの車をレンタカーで借りて教会家族と信者さんとで記念祭にお参りしようというようにお願いを立てて、ずっと準備を進めていたんですけれども、直前になって参加者の中にコロナ感染者が出てしまいました。すごく前日だったんですね。

出発する前日に感染になりました、はあー、なんでだろうっていうことも思いました。すごく残念な思いもあり、その、うちの長男だったんですね。コロナになっちゃったのが。長男置いていこうかしらと思っただんですけども、まあまあそれはね。うちらも、もしかしたら罹ってるかもしれないし、罹って行ったらご迷惑おかけするし、これも何か神様の計らいだよな。

ということ、参拝を断念したんですね。

そういうこともありまして、信者さんもすごい気持ちが盛り上がってたもので、申し訳なかったなと思うんですけども、それでも次は来年の春それに向けて、も本当に一心に願って成就させましょうということ、今年の春、念願かなって車で参拝させていただきました。

夫と私が車交代で運転しまして、教会家族と、そして今回初めてご本部に参拝したいんだって、いろいろなことを願いられた。母の親戚になる方なんですけれども、その方が一緒に行きたいということ、7名で車大きいの借りなくて済むんですけど、そちらで自家用車で行かせていただきました。行きは休憩をして出発するたびに、みんなにシートベルト締めてねって声をかけるんですね。

うち大きな車で3列あります、一番後ろにうちの母と親戚のおばあちゃんが一緒に乗ったんですけど、後ろまで聞こえるのでシートベルト締めてねって言って声かけをしておりまして。

で、無事参拝を終えまして、親戚のおばあちゃんもすごくよかった、ありがたかったって言って、喜んで帰り道、喜びながら来るわけです。帰りになりますと、だんだん疲れもありますし、シートベルトは当たり前のように、みんな締めてくれてるだろうって思ってたんですね。なので声かけもしなかつたんです。

私が車を運転してまして、高速道路、右側追い越し車線の方行っては左に入る。追い越しては左に

入るって言うようなことで、ずっと追い越し車線走ってますと違反になっちゃうので、追い越しては左に入るって言うようなことで、ちゃんと運転してるつもりなんですよね。だんだん道が混んできましてね。後ろから車がついてくる車があったので、左に入って追い越してもらおうと思ったたら、なんでかその車が私に並走するわけです。あれ？と思いましたが。早く行ってよって、だいぶスピード落としただけどなあとか思ったら、助手席の方がすごい、しきりに私の車を覗き込んでますよ。えっと思ってた見たら、覆面パトカーでした。

「私？」ってジェスチャーで窓開ければいいんですよね。やっちゃうんです。助手席の警察の方がねえ、うんうん、えっえっ、シートベルトって言うんですよ。こうやってジェスチャーするんですよ。どっちかって言う窓開ければいいんですよ。多分言ってるんです、シートベルトって言うてるんですけど、ちよつとプチパニックだね。窓開けることも忘れて、ジェスチャーで大体わかりまして、シートベルトって言うてるよとか言ったら、まさかの親戚のおばあちゃん。「あつ、私だわー」って言うんですよ。

車はスモークもちよつとかかかてるし、3列目だし、何で分かったの？ってみんなで思うんです。したらパトカー、私の前に入ってきました。左に入れと左ウィンカー出すわけですよ。プチパニックだからウィンカー出せないわけです。なんで左に寄ってくれないの、私ついていくのと思ったたら、私ウィンカー出してなかったと思ってる、ウィンカーを出しました。そうすると後はスーツと左に入るわけです。止められました、ドキドキドキドキしてるんですよね。

シートベルトと言われたけど大丈夫かなと思って、そうすると警察の方が降りてこられました、「同乗車のシートベルト閉め忘れです」って言われて、そうですか、すいませんって言って、そのおばあちゃんもごめんって一杯謝られる。もういいかなと思ってしてなかったとか言うんですよ。主人助手

席に乗って、ちょっと、なんで締めてないの？みたいになちよつと怒ってました。

そういう時、本当に平常心でそのおばあちゃんに対してなんで？っていう思いも全くないし、もう仕方ないよね。そうだよねって思うわけ、良かったねって。事故じゃないし、何でもないし、良かった、良かったって思うわけで、いろいろ手続きをするんです。私、今回初めて捕まりましたね。車の免許を取ったのが20歳で、それ以来20年乗ってきたんですけど、無事故無違反で、これまでずっと来た中で初めて止められたわけです。

そうすると警察の方が罰金はないですよ。運転されている方がシートベルトとかしなかつたら罰金になるけど、同乗者は一応責任者は運転手なんだけれども罰金にはなりませんと、でも減点なんですと言われました。

そうなんです。何かいろいろ説明してくれるんですけど、緊張しているのでほぼ覚えてないんですけど、違反をしている前後で3ヶ月かな、違反をしていなければ、罰金にもならないし、一定期間過ぎればその1点マイナスもなくなりますと言われました。

今年の7月で一応3ヶ月過ぎるので、とりあえずちよつとほつとしてるんですけど、極力、車乗らないようにしていたんですけど、そういうこともあって、みんな、やっぱりシートベルト大事だよねっていつことも再確認、みんなでしました。今年ちよつど免許の更新で今月なんです。

私免許更新するのがゴールドで、ずっと来てたんですけど、一応色はブルーになるそうなんです。初めての免許を取ってから、初めてのブルーに戻るなと思って心を新たにですね、

ここから安全運転と同乗者に声かけをしていかなきゃいけない、というよつなことも学ばせてもらいました。

本当その出来事の時にちょっとパニックになったから、警察官の方の呼びかけもよく分かってなかったし、いろんなことはあったんですけど、それでも平常心といえますか、ちょっと「」しながら和やかに、努めて和やかな空気になるようにと思って、警察官の方とのやりとりをさせてもらえるっていうのは、本当にそういうことを振り返った時に、神様は私に、その時、ポジティブ信心みたいなことも自分の中で決まっていたわけですよ。私の信心ってこれだよなって思った時に、神様がこんなことが起きてもあんたはポジティブにいられるのかいって、たぶん投げかけられたような気がして、お試しなのかなと思いました。

自分の信心っていうのが揺るぎないものになっているのかなっていうようなことを試されたような気がして、揺るがなかったなって、ちょっと思います。怒りとか人を責めるとかっていうような心が少しでもあったら、そのおばあちゃんは本当にどうしようもなくなくなっちゃう。ご本部参拝、本当にありがたかったのに、嫌な思い出になってしまっなくなっていうようなところがあつたんですけれども、そのおばあちゃんは毎回末だに來られると、毎回言われるんですよ、本当ごめんねって言うんですよ。

だけど、私はいい全然全然、大丈夫大丈夫って言って、気にしないでくださいねって言って、話をするんです。そうすると、本当にご本部に行きたいのよって言われるんですよ。80過ぎてる方なんですけどね、その方がそれでも行きたいんだって言ってくださるってことは、初めてのご本部参拝で、本当におかげいただいたんだなっていうことも思うわけです。

そうやって、自分の信心が揺るぎないものだっていうことも確認できましたし、本当に神様ってすごいなあって思いますよね。だから、その時にもし、ちょっととびつける事故だったりとか、人様に迷惑をかけるような、私が走りをしていたらもっともつと違つ、本当にご本部参拝が嫌な思い出になったらどうな、

というようなことも思いますので、そう思った時に、神様って本当にギリギリのところまで、そういうふうなおかげをくださるといっつか、試しつつ、おかげをくださるんだな、というのを感じさせてもらいました。

また、今年の5月5日には直江津教会での春のご大祭もお仕えになりまして、その時に実家の父と兄が車で熊本から来てくれました。本当に車を運転するのが大好きな親子なので、2人で交代しながら楽しみながら来るわけです。せっかく来てくれるんだから、父に教話の御用をお願いしようと言って、ただ来てもらって参拝だけじゃもったいないので、お話して帰ってお願いしまして、御用してくれて、教衣も持ってきてくれたり、万全の準備をしてくれたんですけど、それでお話ししてもらいましてね。

その時に私が読師をさせてもらいました。お話の前には、お話の前には、講師紹介などさせてもらうわけですけど、その中で私の信心のテーマが、明るい信心とか、ポジティブな信心とかっていうようなこともテーマにあったので、読師の中でお話の中で、「私は誰に似たのかわからないんですけれども、いつも明るいよねってよく言われるんですよ。でも明るく笑顔でいると幸せがどんどん近づいてくるんですよって言って、その時お参りにされた方にお伝えしたんです。

お話しさせてもらって、その後、父にバトンタッチしまして、父は信心の話はずっとしてくれまして、その教話の最後に、父が「さっき誰に似たかわからないけど、明るいつて言っていましたけど、私自身、よく吉田さんは明るいけど、誰譲りですかって聞かれる。その時いつも、「はい親ゆすりです」って答えるんですよってこういうことを父が言っていました。

聞いた時に、私の明るさ、父親譲りだったんだなっていうことも、その時初めて確信しました。

私は親から譲り受けた明るさというものは、父は私からすればおじいちゃん、おばあちゃんから譲り受けた明るさだったのを聞かせてもらった時に、ということは、もっとも前から前から続いてきている。それで受け継いできたものだったんだなということも、その教話の中で感じさせてもらっています、

中学校から高校に上がるときに始めた性格改造計画で、私は過去の自分とは全く別の自分に生まれ変わったと思ってたんですけれども、根本的なところっていうのは変わっていないことに気付きました。土台っていうか、親から譲り受けてきた土台っていうのは変わってなくて、例えば困っている人とか辛い思いをしている人がいると未だに助けたいって思うわけですね。あとはお役に立たせていただきたいっていうようなことは、本当にずっと昔から、中学校の時もそうだし、今もそうっていうので全然変わっていないって思うんですね。

じゃあ、何が変わってこんなことになっちゃったのかなって思ったら、親からかけられてた願いとかが、こういう譲り受けたものを知っていうことが出来たってことと、あと神様との出会いっていうことによって私自身が助かっていった、という実感があるわけです。助かっていった実感というものがあるということは、色々なことに積極的になれるということが出来てきたんだなって思います。

何でも真正面から問題を受けていくと、自分で受けちゃうわけですよね。というのではなくて、神様と一緒にこういう感じで共に受けていくっていつ心が変わることが出来たっていうところが、自分の性格改造をした、だけれども、変わってないところと変わっているところがあるっていうのは、そういうところなんだろうなって、いつようなことも思います。

そしてもう一つですね。私の信心をよりポジティブなものに導いてくださったっていうのが、アメリ

カのサクラメント教会の大矢嘉先生との出会いだっただんですね。

名前は多分よくお聞きになつておられるかと思ひます。前当局の中にいらつしやいましたし、金光図書館の館長でもいらつしやいましたけれども、大矢先生とのご縁というのがありまして、それがですね。

大矢先生が青年教師でご本部で御用をされておるときに、私の父がご本部でをし御用をしておりました。大矢先生が青年教師になられて本部でいろいろ研修とか勉強とかされて、アメリカに渡られるつていう時に、うちの父もいろいろと関わつてアメリカ行きを応援するといひますか。そういったこともあつて、とてもご縁があつたんですね。

父からは、本当に私はその当時大谷先生は見かけたことあるんでしようけど、赤ちゃんは分からなひんですよね。でも幼少の頃から父から大矢嘉先生という男がおつてなあーつて言つて、ずっと名前を聞いてまして、いつの日か会える時が来るのかしら、でもアメリカだったら会えないかななんて思つていましたけれども、その先生がですね。私が結婚して、ご本部で修徳殿つてありますよね。入殿がありません、教師入殿つていうものがあります。

その教師入殿の御用奉仕のお世話をする御用があります。そちらの御用奉仕に、ご本部に住んでるんで来てくれんかつて言われて行きました。入殿の御用奉仕をさせてもらう中で、一番最初の時に御用奉仕の先生はこの先生です、みたいな紹介があるわけです。その時に入殿の担当されていた先生が、私たちを紹介する時にわざわざ私の旧姓を伝えたわけですよ。直江津教会の中西美由祈先生です。旧姓は吉田先生と言われますつて言われたんです。

その時に、なんで旧姓を言われるのかなあ。1年前にもう結婚しちゃつて、中西になつてんだけどなつて思つてたんです。

そしたらその晩ですね。夕飯を片付ける先生方と一緒に茶碗を洗ったりとかしてる時に大矢先生が話しかけてこられました。吉田先生の娘さんですかって言って声かけられたんですよ。先生に顔も似てると、父親に似てるから分かったんだけど確信は持てなかった。だけど、そうやって吉田さんっていう紹介があつて分かったのって声かけてくれたんです。

あなたのお父さんにはね、すっごくお世話になったし、迷惑をかけたんだって言って、その時に言われて、その時にあの大矢嘉という男だと思って、父がよく言ってたあの名前だと分かりまして、すっごく嬉しくなりましてね。その晩すぐ父に連絡して、大矢嘉先生に会ったよって言って伝えました。

私の旧姓を伝え、わざわざその先生が言わなければ多分、確信持てないまま、多分会つてなかったかもしれない、お話ししてなかったかもしれないですよ。と思いますと、神様がそこに働いてくださったように思います。

その後ですね、その御用奉仕終わって、それで終わっただんですけれども、その後、金光図書館での御用に当時の図書館長の金光英子先生から声をかけていただきました。子育てをしながら、無理のない範囲で図書館に御用に来てくれないかな、と言って声がありました。

当時、ちょうど次男が幼稚園に入った時だったので、時間がちよつと空くわけですよ。その時間、金光図書館に行つて資料の登録とかさせていただきました。その御用に入つて1年後に三男を授かつちゃつたので、一回退くんですね。図書館引かせてもらいました。

出産の1ヶ月前まで御用させてもらつて、引かせてもらつたんです。1ヶ月前だからゆとりあつて、出産に向けてと思つてたら、半月で生まれまして、御用の応援だと、でもすごいありがたい無事に元気に生まれてきてくれたんですけど、本当にありがたいと思つておりました。

一回図書館を引かせてもらったんですけど、4月になる前、3月ぐらいにやっぱり戻ってきてくれんかなーって言って、子供産んで間もないけど一緒に来てくれない。赤ちゃん連れて御用に来てくれないかなって言ってくださいますして、当時本部教庁では珍しい赤ちゃん連れての御用に向かうっていう前代未聞のことをさせていただきました。

資料整理なので、図書館利用者には全然わかからないところで赤ちゃんのベビーベッドも用意してもらって、私のパソコンの横に置いて、ふにゃふにゃ言ったら抱っこするとか、他の図書館職員もたまに抱っこしてくれるとかという感じで、みんな迎え入れてくださいますして、三男が生まれた時にもありがたいと図書館に復帰させてもらって、私自身も精神衛生上少しの時間でも二人きりじゃない時間が出るというのはとても心にゆとりができるというか、本当にありがたいなと思って御用させてもらっていたんですけど、

そしたらまたありがたいことに、金光学園幼稚園がその年から金光学園子ども園に生まれ変わりましたして、ゼロ歳児から受け入れてくれることになったんですね。

3男が生まれて、神様が準備してくださったかのように、うちの子を0歳児から6ヶ月から預けられたので、6ヶ月まで図書館と一緒にいったんですけど、その後は、子ども園の方に入れてもらって、しかも最初のうちは授乳の時間、そこに行つて授乳してみたいな、子ども園的にもすごいアットホームというかイレギュラーなことをさせてもらって、子ども園とかに入れて、ちよつと遠く離れてたらミルクでなんとかしのいでとかっていうようなこともあるんですけど、親子関係もうまくいくというか、

本当に全てが自分の思いと思いはあっても、それ通りになかなか社会的にうまくいかないことが多

いんですけど、本当に整っていくつていうか、そういうようなこともあってすごくありがたいなと思って、それから復帰してから、「こ本部からこちらに帰ってくるまでの間、ずっと図書館で御用させてもらえたという、すごくありがたいことでした。

最後、「こちらに戻ってくる1年ほど前に図書館長が任期で交代するということもあって、その時に大矢先生が図書館長で来られたんですね。そこで再会しました。

その時に大矢先生その約1年ほどの期間なんですけど、私が図書館にいる最後のその期間で初めて大谷先生の信心に触れる、神様に触れる機会がともありまして、そこで先生がすごい素直に神様と向かわれるわけです。

そういう話をずっと聞かせてもらっていると、難儀なことがめちゃうちや起るんですね。いろいろお話聞かれているかもしれないですけど、命にかかるようなこともあったりする中でも、それを神様と問答するわけです。

神様から難儀なことが降りかかって、そうきたか、神様に言つていうか思うわけです。そう来たんだ、じゃあ、これでどうだ。自分の信心、違つことが起つたというやりとりの話も聞かせてもらっていると、難儀なことさえも神様との会話の中で楽しんでいる。それで神様とやりとりをしている。そういうふうなことを感じさせてもらえる。

なので、それまでの私の中の教師、金光教の教師ってこうだつていうのがある程度あったわけですが、それにこうだつていうことに自分が到達できない自信のなさというか、そこまでなかなかいけないうちで思つてたんですけれども、大矢先生の自由な神様とのやりとりとか、そういう信心の話聞かせてもらつて、とってもなんか心が軽くなると思いますか、分かつてなくてもいいじゃないです

けど、分からないことをちゃんと分からないと言える。

こういふことって、難儀なことが降りかかってきて、それを教師として 信心で受け止めなきゃいけないとか、それで苦しくなるぐらいだったら、いや分かんない、神様これ辛いんだけどって言えちゃう。そういうふうな、すごい軽いというか勢いなんですかね。不思議な感覚なんですけど、そういうもので先生の話を聞いてたら、とっても私の心が軽くなったんです。

それまでは、本当にガチガチで固まってたものが解かれていくというか、そういうふうなことが感じられて、すごい信心するっていうか、させてもらう。神様に向かうとかかっていうことがすごく楽しくなってきました。

そんな中で神様はとても大きいものなんだってことを実感させてもらって、どんなことがあっても大丈夫なんだなって思えるようにもなっただんですね。なので、大矢先生との再会というのも神様が私に差し向けてくださったものというか、なんか、すごくこう何ですかね。すべては神様が全部仕組んでくださっていることというか、そこに私が出会わせてもらって、そこに神様の働きを感じるか、感じないかということろなのかなと思っています。すごくありがたいなということも、しみじみ思います。

それでも、こんなに明るく楽しく、信心して毎日楽しいなって思うんですけれども、それでも時々ネガティブになるんですよ。すごい気持ちが落ち込んで、どうしようもなくなることもあるわけですよ。

今、私は教会御用と地域のことも知りたいなと、地域の皆さんのこともどんな人たちなんだろう、というのを知りたいなという思いもあって、外でお仕事もさせてもらっているんですけれども、やはり

一般社会で仕事をするとというのは、今まで経験ないもので、やっぱり人間関係というものはちょっと辛くなってくるんですよ。価値観がちよつと違ったりとかして。先日もですね、本当に仕事が辛くて辛くて辞めてしまおうかなっていうことも、本気で思っていました。

主人にも、本当にもう無理って言って、こんな辛い思いままでして、仕事したくないって言って逃げたこと言っただけとも言いました。その仕事ってというのはですね、私はコーヒーとお酒が好きで、カルディってご存知ですか？輸入食品とかコーヒー豆とかも扱っているお店なんですけど、すごい活気があって楽しいところなんですよ。

スタッフがお客様と関わっているいろいろ話ししながら関係築けるような場所だったので、私すごいいいなと思ってそこでお仕事をしています。すごい楽しいんですけど、時々やっぱり波のようにですね、人との関係の辛くやってくる。辞めたいなって思っている度に、いいお客さんが来てくれるんですよ。私をすごい好んでくれる方がいらっしやるんです。

本当に辞めようと思った先日も、初めてお店に来られたお客様がいらっしやって、年配の女性の方だったんですけど、入口のところで遠目から「コーヒーケースを見られてたんです。その方が私に、近くで品出しをしていたので、「ねえねえ、こゝってキーコーヒー」って言われたんです。

あつ、キー「コーヒーじゃないんですよって、いろいろ説明して「私はね、キーコーヒーでいつも「コーヒーのよ」って言われて、そうなんですかって言って、いろいろやり取りしながら、うちもね「コーヒーもいろいろあるんですよ。とか話してた。

そしたら本当に全然入らないんですよ、お店の中に。遠目からこの「コーヒーどうですかとか、どんなのお好みですかとかいった話聞いてましたらね。「じゃあ、ちよつと買ってみようかしら」って言って

くださいます。一袋でいいですかね、とかいった話して、せっかくですから、中入ってちよつと見てくださいよとか、いろいろ書いてあるんでとかいって、一緒に見ながら買ってくださいって、その方の「コーヒー準備して、お会計してもらったんですけど、お会計終わって帰られるときに、「あんだ、商売上手ね」って言われました。

押し売りしたかなと思つてちよつとドキドキしたんですけど、すごく楽しんで、満足してくださったお声だったんですよ。私も「コーヒーとお酒が大好きなんで、このお店で働こうと思つたんですよって言つて、このお店で何で働いているのかって話をしたんです。それでこの「コーヒー」がお客様の口に合えば嬉しいですよって言つて、また今度いらっしゃった時に感想聞かせてくださいねって言つたんですよ。

そしたら、「あなたいいわ」って言つて、「またお買い物来なくなつたわ、また来たらあなたを探すから」って言われたんですよ。「お店の中回つて探すからね」って言つて、「あなたのお勧めするものをね、あなた信用できるから、あなたが勧めするものを買いたい」って言ってくださいました。

なんかすごいその方がね満足気に帰っていかれる姿を見て、なんかすごくありがたいな。また辞めれなくなつちやつたなつて思つわけです。前も辞めたいなと思つた時に、そういうたお客様が来られるんですよ。

「あなたいいわ」って言つて、「また来たらあんだ、教えてね」とか言われるんですよ。だから、そういうたことで辞めれない。

そうすると、神様がその方を私に差し向けてくださってるだなと思つて、お店で働くときに、外で働くのも御用つて言つてくれて、あなたがここに差し向けられた意味を考えて働いてね。

あなたがなんでそのカルディーっていうところに行ってるのかっていうのを考えながら御用してねと言っわけです。仕事も私は御用だとは思ってたんですけれども、私がここに存在する意味っていうものは考えなきゃいけない。

だから辛くて辞めたくなくなるんですけれども、御用と思ってお客さんが私と接して少しでも和んでくださったりとか、一緒に働いている人が元気になったりとか、そうやっていけばいいな、というようなことも思います。

ネガティブになったりとか気持ちが悪く落ち込んでどうしようもなくなることも、生きていればあるんですけれども、そんな時は悪あがきをせず、ですね、もがかずじっと静かにして、神様が手を差し伸べてくれるのを待つのが、私は必ず気持ちがポジティブになるといつか、やってくるのがあるので心配せずにその時をじっと待ちます。

四代金光様の『明るい方へ』という話を思い出して楽しいことは楽しむということで、辛いことは辛いだけでも、辛いことの中に必ず助かりがあるということをつかっていたわけですから、神様に抱っこされて安心安心。そういう中で私たちはお道に出会っているので、安心して全て受けていくっていうんですかね、身動き取れなくなったら動かなくていいと思うんです。

そういうふうな安心安全のお道の中で神様の中で、私たちは生かさせてもらっているのです、そういうことを辛くなった時に思い出して、心穏やかに少しでもなっていけたらなと思います。

今日いろいろお話しさせていただきましたけれども、今日皆さんお話し聞いていただいて少しでも心が軽くなったり、ポジティブになったり、

くださることを祈っております。ありがとうございました。